

	<h1>志木三小だより</h1> <p>学校教育目標 やさしい子 考える子 丈夫な子</p>	志木市立志木第三小学校
		平成28年度 No 1 1
		平成29年2月 1日
		志木市柏町3丁目2番1号
		TEL 048 - 471 - 1062
		児童数2月1日現在580名



言語活動を充実させる

校長 可知 良之

最近、東武東上線に乗っていたときのことです。駅のホームで電車を待っていたところ、外国の方が、すぐ近くで会話をしていました。これまで一度も聞いたことがない言葉でしたので「英語ならば少しぐらいは大丈夫だけれど、もし話しかけられたらどう返事をしようか。」などと、どぎまぎしてしまい、大人の日本人として少々恥ずかしく思っていました。

話は変わって、私はドラマが大好きで、どんなに忙しくてもお気に入りのドラマは欠かさず見ないと気が済まないほどです。少し古い作品ですが今から10年ほど前「ドラゴン桜」というドラマがありました。主演の阿部寛さん演じる元暴走族だった弁護士が、落ちこぼれの高校生たちを天下の東大に入学させるというストーリーで、そのユニークな勉強法が当時ちょっとした話題にもなりました。第9話の国語の授業で特別講師の芥山先生（寺田農さん）は生徒を街に連れて行き、「看板を見て気付くことはないか」と問いかけます。すると新しい看板には日本語表記の他に英語、中国語、韓国語の文字が書かれていることに気が付きます。すると「では、どうしてこのような表記の看板が最近増えてきたのか」と更に追及します。中国や韓国の人々が最近日本にたくさん来るようになったからだろう。お金持ちになったからかもしれない。・・・様々な考えが出てきます。芥山先生はこう言います。「国語で正しく読み取るということは、なぜ、どうしてというように知的な好奇心をもって推測し、正しく情報を読み

取ろうとすることなのです。」なるほど、いいことを言うなあと大変心に残ったワンシーンでした。

2020年には小学校でも英語が教科として導入されます。英語が世界で最も広く通用する言語ということからなのでしょう。そしてもう一つ、どの教科でも取り組んでいくべきこととして言語を通じた様々な活動（言語活動と呼んでいます）を今後一層充実させていく必要があると言われていています。話し合い活動やディベート、論文形式のレポート作成など、これまでとは授業の形も変わってきています。教科としての小学校英語が導入される背景には、外国語による言語活動の充実があると思います。ただ英語が話せれば良いということではなく、文化も違う生活の仕方も違う話す言語も違う人たち同士が、それらの垣根を越えて共に協働していく社会が、もうすぐ近くまで来ています。学校として、こうした様々な言語活動をこれまで以上に進めていきたいと思っています。

本校の教室表示も世の中の流れに合わせて4カ国語表記にしました。これも視覚からの言語活動の一環です。学校にお越しの際はぜひご覧になってください。

